



● 水石 玲子 ●

◆生理の貧困について

問 コロナ禍で経済的に困窮し、生理用品が買えない、利用できない環境にある生理の貧困が社会問題となっています。当市では、5月24日より無償配布の窓口を開設されましたが、開設までの経緯と現状を伺う。

答 市民からの要望もあり、生活困窮の早期発見につながり、相談への移行もスムーズに行えることから開設。配布場所は、福祉課、子育て支援課、ウエルフェア土岐の3カ所。現在、23人の方に渡している。又、非常時の災害用備蓄品として新たに生理用ナプキンを購入した。

問 小中学校での対応は。

答 5月中に学校規模に応じ50個から200個を各校へ配布している。今年度からは、生理用品を必要としている児童・生徒へ貸与でなく、無償提供する。保健の授業を通して校内の相談窓口を紹介し、支援が必要な児童・生徒の声が届きやすくする。

◆通級指導について

問 通級指導の位置づけ、利用人数、

現状を伺う。

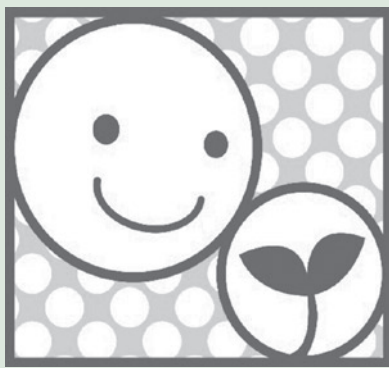
答 主に話す、聞く等、言語機能に発達の遅れがある言語障がいのある児童への指導を行うことばの教室と、心理的な要因による自閉症や情緒障がいの児童への指導を行うなかまの教室を土岐津小と駄知小にそれぞれ設置。ことばの教室では、土岐津小、15名、駄知小、8名の合計23名。なかまの教室では、土岐津小、37名、駄知小、32名の合計69名が利用している。

問 問題点や改善点は。

答 専門的な技能を備えた教職員の育成が急務。

問 中学校で通級指導教室の開設は。

答 開設する条件が13名以上の生徒で構成とある。今年度、特別支援教育に関わる指導教諭制度を活用し県教委から1名配置。全体の把握をして、中学生での指導の在り方について、今後の対策を練り検討していきたい。



生理用品無償配布デザイン

《第3回定例会一般質問》

●印は議員の意見・提案



● 和田 悦子 ●

◆セラミックバレー構想と美濃陶磁歴史館と小山富士夫氏について

問 セラミックバレー構想の軸には、陶磁研究においては第一人者で土岐市とかかわりの深い小山富士夫氏が欠かせないと思うが、土岐市として今後どのような位置づけをされるのか。

答 セラミックバレー構想はスタートしたばかりで具体的な構想はまだない。当面の取組として、今年度9月から来年の2月に美濃陶磁歴史館での特別展、企画展ということで、小山富士夫氏を取り上げたい。又、その都度必要なPRをしていきたい。

問 土岐市は美濃陶磁歴史館の建て替えを計画されておられるが、小山富士夫氏の資料館併設について基本構想の中に入れて検討をしてみたいか。

答 土岐市が所有する小山富士夫氏の茶碗、花入れ、書簡などの著作物は35点ほどで、資料館を単独で整備する規模としては多くないので、今回の企画展を通じて業績の紹介をして

いきたい。

問 美濃陶磁歴史館の設計業者はどのような視点で選ばれるのか。

答 今年度、基本構想策定業務にとりかかっている。強化していくべき活動内容や施設機能について、研究機関との連携協働について、地域活動やまちづくり活動の創出についてなどをプロポーザルの提案事項とし審査を実施して、最優秀提案事業者を選出している。

問 小山富士夫氏の邸宅は管理に年間80万円をかけられている。しかし私から見ると、このまま廃屋になってしまふのを待っておられる感じがするが、今後の対応について。

答 建物はかなりのダメージを受けており、改修工事をする場合、相当な投資をしないといけない。今後建物を活用して何かをやっていくのはかなりハードルが高いと思っている。

● 小山氏の意志を受け継ぐ若い芸術家に窯と邸宅を譲ることは考えられないか。具体的に募集をかけるなど全国に発信すればどうか。手をこまねくよりは、一歩踏み出した対策をお願いしたい。

問 案内看板の設置について。

答 今後、方向性を検討した後、必要に応じて看板は設置したい。



高井由美子

◆不妊・不育症の支援について
問 不妊治療助成の拡充内容をお伺いいたします。

答 所得制限の撤廃、一回の上限が30万円に統一。助成回数が一子ごとに6回まで、ただし、妻の年齢が40才以上43才未満は3回まで。

事実婚も認められる。

令和3年1月1日以降に終了した治療から適用される。

問 不育症の検査費用の助成は。

答 流産検体の染色体検査など。研究段階にある不育症検査に係る費用で一回の検査につき5万円まで助成する。

問 助成制度の市民への周知は。

答 市のHP・広報誌で周知に努める。

◆GIGAスクールについて

問 小中学校のGIGAスクール授業の現状等について伺います。

答 昨年度、全小中学校の児童、生徒及び教職員用タブレットを一人一台破損ケース、充電しながら保管できる施錠つき保管庫を整備。

校内無線LANを可能とする光フ



タブレットを使った授業

アイバー網の整備をした。

問 セキュリティー体制は。

答 ユーチューブなどへのアクセス制限や時間制限を設けられるようフィリタリングソフトの整備を進めている。

問 活用の課題は。

答 Wi-Fi環境が整備されていない家庭は、公民館や学校で対応する。教職員のスキルアップが重要。

各校のICT教育の支援を行う為、学びのICT支援室を室長以下5名の体制で設置する。

●ICTを活用して不登校児童・生徒への学習支援につなげてほしい。

◆ごみの分別回収について

問 水銀廃製品は分けて保管、処分していただきたい。

答 水銀電池等の有害物質の含まれるものについて、今後検討させて頂きます。

《第3回定例会一般質問》

●印は議員の意見・提案



楓 博元

◆ふるさと納税について

問 昨年度の目標別の実績を伺います。

答 読書率向上事業が422件で936万円、全世代健康寿命延伸事業が243件で561万円、市政全般が768件で1,884万円です。

問 寄付1件あたりの金額はどのようですか。

答 1万円から2万円未満の寄付金が全体の約6割を占めています。

問 返礼品の分野別の件数と金額はどうですか。

答 陶磁器が1,313件3,150万円、食品が115件213万円で、陶磁器が全体の9割を超えている状況であります。

問 節度あるふるさと納税であるために、要した事業費はいくらでしたか。

答 事業費としては1,356万円でした。寄付額の約40%になります。国において返礼品は寄付額の3割以下、募集費用の合計額は返礼品を含めて5割以下と定められています。

問 今後の進め方はどのようですか。

答 1、寄付金の使い道は現行の3点

で進めていきます。2、返礼品提供

事業者さんに努力をいただき、既存返礼品のブラッシュアップに努めます。3、新規の事業者の開拓も必要

だと考えます。4、土岐市ならではの特色を生かした地場産品や体験サービス

のPR強化にとりくみます。5、土岐市の紹介ページの充実を図り、市の魅力を高めたいと考えます。

6、ポータルサイトは現在1社ですが、今年度は新しいサイトを追加したいと考えています。以上のように進めていきます。

◆住みやすいまちづくりについて

問 フレイル予防に外での運動が勧められているが、公衆トイレが少ないと思います。町別にお答えください。

答 土岐津町7、下石町1、妻木町2、鶴里町0、曾木町1、駄知町1、肥田町2、泉町13、で合計27か所設置しております。

問 かなり片寄っていると思います。各町に公衆トイレを増やす考えはありませんか。

答 フレイル予防として、今年度は公園を活用した健康づくりを目的として、都市公園健康遊具設置事業を実施していきます。健康づくりの場やウォーキングコースの設定とともに公衆トイレの必要性を検討し、ときげんきプロジェクト事業を進めていきます。